

## 「平成 28 年度こども地震防災教室」についての概要報告

### 1. 概要

静岡県地震防災センターより「こども地震防災教室」への協力依頼があり、平成 28 年 8 月 7 日（日）に実施した。本件は小中学生を対象とする人材育成研修事業として、同センターが主催するもので、イベント数は計 7、午前午後にわたり計 4 時限（45 分/時限）で行われた。当日本技術士会静岡県支部は【イベント 7】の 4 時限を使い 8 教室（㉠～㉨）を担当。昨年はエッキーづくり教室のみであり、他にクイズコーナーを担当したものの、今回は 8 教室と一気に増加した。技術士及び関係者 11 名の参加協力を得て当初の目的を果たした。

### 2. 実施状況及びフォロー

#### (1) 実施状況及び県地震防災センターへのフォロー

各教室の担当ごとに事前準備の手順に従って実施。事故やトラブルはなく円滑に進行。各教室の様子は写真、動画で記録。実施後、写真、動画などのデータをセンターへ提出。

#### (2) 当静岡県支部実施チームでのフォロー

実施後、メール及び電話で意見交換。次年度の要請もあるため、反省点、教訓、提言を抽出し対応することが重要。

現状の主な意見：

- ・準備などの予算（運営費）の件
- ・合同会議への参加（他がどんなことをしているのかわからない）
- ・本こども地震防災教室の意義や位置付けの明確化（技術士会で担う意義）
- ・こども目線、親の目線にあった内容の教室が重要（事前の中身検討）
- ・今後とも継続していくべき
- ・当支部としての広報活動に資するようより良い企画内容にすることが重要
- ・主催者側の広報の仕方に工夫がいると感じた
- ・会場での技術士会の認知度向上パフォーマンス（看板、旗等）はどうか。

### 3. まとめ

静岡県はふじのくに防災士養成講座を大人向けに実施。こども地震防災教室は小中学生を対象とした人材育成研修事業としての位置付けにある。その意義、位置付けはいざという時に備えると明確である。当支部は（公）日本技術士会の組織として対応することが重要。地震防災先進地域の技術士集団として、他地域をリードする活動が求められる。ハード面では平常時の予防、災害時の診断、復旧復興時の治療と、ソフト面での自助、共助、公助を含めて、これからは「こども」というキーワードがとても大切になると感じている。

以上





じしんぼうさいはかせ  
めざせ! **地震防災博士!!**

～こども地震防災教室～

<p><b>時限</b> (時間)</p>	<p><b>【イベント7】; おもしろい教室まとめ</b></p> <p>(小学4～6年生、中学生向け); (公) 日本技術士会静岡県支部担当8教室 (A～H)</p>		
<p><b>1</b> (10:00～10:45)</p> <p>実績 (子 8、親 6)</p>	<p><b>A) みてみよう断層発生</b></p> <p>講師; 水野俊兵 (建設、応用理学、総監)</p> 	<p><b>B) つくろう防災グッズ (レインコート)</b></p> <p>講師; 吉田建彦 (機械、経営工学、総監)</p> 	
<p><b>2</b> (11:00～11:45)</p> <p>実績 (子 13、親 9)</p>	<p><b>C) エッキーをつくろう (地盤液状化実験ボトル)</b></p> <p>講師; 桑原雅典 (建設)</p> 		
<p><b>3</b> (13:30～14:15)</p> <p>実績 (子 14、親 13)</p>	<p><b>D) みてみよう火山噴火</b></p> <p>講師; 柴田達哉 (建設、応用理学、総監) 他</p> 	<p><b>E) つくろう防災グッズ (ランプ)</b></p> <p>講師; 馬淵大幾 (建設)</p> 	
<p><b>4</b> (14:30～15:15)</p> <p>実績 (子 25、親 α)</p>	<p><b>F) つくろう防災グッズ (上着、スリッパ)</b></p> <p>講師; 吉田建彦 (機械、経営工学、総監)</p> 	<p><b>G) つくろう防災グッズ (貯水、食器)</b></p> <p>講師; 大塚優 (衛生工学)</p>  <p>調理、水の運搬など 多用途に有効。</p>	<p><b>H) 役立つロープの結び方</b></p> <p>講師; 近藤衛 (水産、総監)</p> 

(註) 記録担当; 山之上、近藤/ 県地震防災センターとの連絡; 柴田/ 総括; 山下 (支部長)

実績計; 子 60、親 28+α